

1 番 和 田

それでは、一般質問を始めさせていただきます。

受付番号第 1 号、質問議員 1 番、和田成功。

件名、「山北駅周辺の活性化を」。

全国的に地方の転出超過や過疎化、超高齢化などが広がっており、既に全自治体のうち約半数が「消滅可能性自治体」に該当するという状況に陥っている。

当町においても、人口の減少や高齢化により慢性的な労働力不足へ陥っている地域は少なくない状況であると推察されるが、地域の経済や社会、文化などの動きを活発化させることで、地域に住む人々の意欲を向上させ、それを維持・発展させることがまちづくりにおいても重要であると思われる。

地域活性化への取組は、協働のまちづくりや移住定住促進にも寄与するものと考え、以下の質問をする。

1、山北駅周辺を活性化させるような計画等を策定する予定は。

2、D5270の軌道延伸計画の進捗状況は。

以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

和田成功議員から「山北駅周辺の活性化を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「山北駅周辺を活性化させるような計画等を策定する予定は」についてであります。山北駅周辺の活性化に向けては、これまで総合計画に位置づけられた施策を山北町商工会と連携を図りながら推進し、にぎわいの創出につながる商業支援策や各種イベントの開催に取り組んでまいりました。

本町が行ってきた商業支援策といたしましては、プレミアム付商品券の発行や、中小企業・小規模事業者等持続化補助制度の創設があります。この補助制度により、地場産品や地域資源を活用した商品の開発や改良を支援してまいりました。この制度は今年度も継続しており、制度を活用していただくことで、新たな土産物やD52グッズの開発支援にも取り組めることとなるため、期待を寄せているところです。

次に、にぎわいの創出につながる取組といたしましては、やまきた駅前朝市実行委員会が主催する朝市の周知といった広報支援や、店舗移転により空き店舗となっていた、旧かながわ西湘農協山北支店を借り上げ、そこでの木工教室開催を行う施策にも取り組んでおります。各種イベントとしては、やまきた桜まつりやD52フェスティバル、産業まつりの開催を通して、にぎわいの創出、町の活性化に取り組んでまいりました。

昨年10月8日には、「山北のお峰入り」ユネスコ無形文化遺産登録記念公演の一環として、山北駅周辺の活性化やにぎわいの創出を図るため、山北駅前商店街で「道行き」の記念公演が行われました。これに合わせ、駅南側の山北鉄道公園及び健康福祉センターを会場として「D52フェスティバル」を分散して開催しましたが、その際も駅の北側と南側の回遊性を高めるためスタンプラリーを行ったことで、山北駅周辺の活性化やにぎわいの創出につながったと考えております。

今年度、山北町商工会が新たな役員体制になったことをきっかけとして、7月上旬に商工会の新三役に対し、商工会役員や新規出店者を交えた中で、改めて駅周辺の商店振興方策や、駅周辺で開催される観光イベント時の商業振興をテーマとした意見交換を行いたい旨を投げかけ、了承を得たところであります。

現在、商工会事務局との調整を経て、9月上旬に関係者を交えての意見交換会を実施する予定となっておりますので、今後もこのような意見交換を重ねながら、第6次総合計画前期基本計画に位置づけた施策に取り組み、山北駅周辺の商業振興方策の検討や山北駅周辺の活性化につながる施策に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「D5270の軌道延伸計画の進捗状況は」についてでございますが、軌道の延伸については、現状の12メートルから、機関車の後方へさらに30メートル程度を予定しており、その準備段階として、令和4年度に後方にあった遊具を全て平山のびのび公園へ移転し、新たな遊具を前方へ設置したところであります。

延伸工事に当たっては、プラットホーム及び経年により劣化した機関車上屋の新設、ウッドデッキの撤去などを予定しており、多額の費用が見込まれ

ます。

現在、工事の実施に向け、交付金や民間資金の活用等、資金調達についての検討を進めているところであります。財源の確保が大変厳しい状況ではありますが、引き続き実現に向けた検討・調整を進めてまいります。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 それでは、再質問させていただきます。

答弁回答にもありましたように、にぎわい創出に向けていろいろ取り組まれているということは理解しますが、質問にあるように、さらに活性化させるような計画、これを作ってどんどん進めていく、さらににぎわいなりなんなりというのをやっていくというところは、町としてどのようにお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 いずれにしても、山北駅については、今その次のあれでD52の件もございますし、あるいはまた商店街、あるいはまた今体育館の建て直しもやっております。全体的なところを見ながら進めていくより仕方ないのではないかなというふうに思ってますし、また皆さんの商工会あるいは振興会等の御要望を聞きながら、一緒になってやっていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ御理解いただければと思っております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 ある程度の理解はします……。確かに、このときには、あったという事実は認識しております。でもそれが通常というんですかね。昔のようになぎわい、常ににぎわうというんですかね。商店街も事業をやめられる方も多くなってきた、シャッターが多くなってきたという現状であります。事業者支援といったところは町として、直接はそこへ関与できない。商工会を通じて連携を図りながらやられているというのは認識しておりますけど、事業者だけじゃなくて、地域活性化って、やはりそこに住んでる方、町民の方それぞれがやはりまちづくりに寄与するような活動と言いますか、そういうことを取り組んでいくことによって地域が活性化していく、それがだんだん広がってまちづくりにも広がって、山北町が目指す10年後20年後のその将来像というものに近づいていくのかなといったところで、やはり10年後20年後の将来像で

いろいろなところに書かれておりますけれど、何か漠然としてるんですよね。だからもうちょっとそこを、町長、ビジョンとして、しっかり10年後20年後、こういう町にしたいんだと、第6次総合計画にもあるように、バックキャスティングで10年後こうしたいんだから今何をすべきなのか、20年後、こういう町にしたいから今何をすべきなのかというふうなところをしっかりとやっていかないと、10年20年先、山北はどうなってんか心配される方が結構多いと思うんですよね。そういったところで町長がリーダーシップを取ってビジョンを示して、それに向かってみんなで頑張っていこうというようなそういう機運というんですかね、その辺をしっかりとやっていくべきだと考えますが、その辺、町長いかがでしょうか。

議
町

長 町長。

長 おっしゃるように、商工業者だけでなく一般の住民の方にとっても、やはり山北駅周辺というのは、非常に大事なところだというふうに考えております。今、山北町は、御案内のように、少子高齢化の中で子どもの生まれる数が非常に減少しております。こういった中で、やはり商工業以外のところで考えますとやはり新しい住宅、あるいはマンションそういったようなものは、やはり駅周辺に、サンライズはありますけども、ほかのものも当然必要だろうというふうに考えております。

そういう中で何とか、人口を増やすというよりは減っていくのを抑えながら子どもたちの数をそれなりに確保していくというんですか、産んでいただく、あるいは、また引っ越してきて移住していただく、そういったようなことが今求められてるのではないかというふうに思っておりますんで、今現在、東山北についてはある程度の数字が少しずつ出ておりますけども、山北駅周辺については、やはりサンライズやまきた以降、子どもの新しい生まれる数が減っておりますんで、やはりそういったことを考えながら、それなりのところ場所を確保しながら住みやすい住宅をやはり考えていかなければいけないというふうに思っておりますんで、そういった意味では長期的にはそういうようなことを連携しながらやっていきたいというふうに思っております。

議

長 和田成功議員。

1 番 和 田 今、町長の答弁の中で少子化といったところもありましたけれど、質の高い暮らしを実現するための地域機能の充実、地域資源を生かした個性的なまちづくり、こういったことをしっかり取り組んでいけば、自然と移住定住につながって少子化の、そこで改善される、直接改善されるとは言い切れないとは思いますが、そういう好循環が生まれてくれば、少子化対策にもなりますし、そういったところで若い世代が住んでいくようになれば、担い手、地域活性化の担い手といったところもフォローできるのかなと思います。

ただ現状、本当に高齢者と言っては失礼なぐらいに、元気な60代、70代の方、たくさんおられて有能な方が地域に眠ってると言ったら失礼かもしれないですけど、そういった方が積極的に地域活性化、まちづくり等に参加できるようなそういったプログラムというんですかね。そういったことはやっぱり連携してやっていくことによって、町が思い描くようなまちづくりに進むんではないかというふうに考えます。その辺について、町長いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるようにやはりまちづくりは、今住んでる人だけが考えるだけでは、なかなかいかないというふうに思っておりますんで、やはり、こちらのほうに協力していただける方、あるいは永住していただける方、そういったような方も含めたところで、まちづくり、あるいはにぎわいの創出をしていかなければいけないというふうに思っております。

この後の質問でもございますけども、ほかの今山北町と一緒にやらしていただいてる川崎市であるとか品川区であるとか様々な自治体がございます。そういったところの交流をやはり山北町でやっていただくようなことが必要ではないかというふうに思っておりますんで、そこのできるような場所づくり、シェアハウスになるのか、あるいはまたどういう形になるか分かりませんけども、そういったところが必要ではないかというふうに考えておりますんで、そういったことを含めながら山北駅周辺のまちづくり、そして、また山北全体のまちづくりを皆さんと一緒に考えていきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 ごめんなさい。これ最初に聞くべきだったのがちょっと順番が狂ってしま
いましたけど、山北町の中で山北駅って中心的な存在なのかなというふうに、
駅が近いんで勝手にそう思ってるんですけど、町として山北駅というのをど
ういうふうに捉えられているのかといったところで、その辺についてお聞か
せ願いたいと思います。

議 長 町長。

町 長 山北駅については、令和9年に建て替えというのがＪＲ東海さんから打診
がございまして、また皆さんに御相談しながら進めていかなければいけない
というふうに思いますけども、やはり山北駅というのは山北における交通の、
鉄道、あるいはバス、タクシー等における中間というかセンター的な場所だ
というふうに認識しておりますんで、やはりそれに見合うような駅ないしは、
そういったような中で、山北駅から例えばいろいろな洒水の滝行ったり、大
野山行ったり、あるいはまた丹沢湖のほうへ向かったりというようなことが
当然考えられるというふうに思っておりますんで、そういった意味では、山
北駅のポテンシャルというんですか、そこの持つてる潜在意識というんです
か、そういったものももう少し上げていくようなことを町としても考えてい
かなければいけないというふうに思ってますんで、ぜひ皆さんからも、様々
な提案をいただければというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 今町長の答弁の中で、駅舎建て替えといったところが今後検討していくと
いうような回答があったかと思うんですけど、ＪＲさんと連携してやって
いくといったところだと思うんですけど、町長として、どの程度そこに連携
をしていくという考えがあるのか、その辺もしあれば考えをお聞かせいただ
きたいと思います。

議 長 町長。

町 長 少なくとも、山北の駅舎については、今ＪＲ東海さんのほうはものすごく
小さくしたいという御要望ですんで、それについては山北としても、大体今
ぐらいの規模のものは確保したいと、面積的にはそのぐらいを頭の中に考え
ております。

それから、ＪＲ東海さんのほうでトイレを撤去するということを言ってま

すんで、これはやはりどうしても観光地としてあそこにトイレがなくなってしまうということになると、やはり相当不便で困るだろうというふうに思っていますんで、当然トイレについては、今の観光事情からすると、ただトイレがあるだけじゃなくて、やはり相当きれいというか観光地らしい、今の何ていうんですか、観光客を迎えるだけのいいトイレを作らなければならないというふうに思っていますんで、最低限そこだけは何とかねやってみたいと。そして、それ以外のものについては今商工会とも協議しておりますけれども、やはり町のにぎわい、あるいは交通の拠点になるというところをどういうふうに駅の中に作っていくかということはまだこれから、皆さんと協議しながら進めていきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 答弁の中にトイレは必要だと、ＪＲのほうで撤去されてしまうので、その辺の考えについては同感でありますし、山北駅無人化になったタイミングで、関係機関、ＮＰＯとかそういったところが民間というかボランティアで切符販売、これ全国的にも珍しい事業らしいんですね。その部分もＪＲさんとしても残すような、いろいろ注文をつければそれなりのものができるのかもしれないですけど、費用負担というのにもかかってくるといったところで、将来的に考えて、過度の負担にならないような程度のものづくり、またそういうふうにやっていると、イニシャルコストはもちろんのこと、ランニングコストもかけれます。そういったところも踏まえてしっかりと、今後協議されて、あるべき姿といいますかといったところを慎重に取り組んでいただきたいんですけど、時間的にそんな余裕もないのでと思うんですよね。だから、その辺はしっかりと協議をして、これから行っていただきたいかなと思います。

それで続きまして、事業者支援のところ、回答にもありましたけど、やられてるというのは存じております。今後、こういった支援というのかなというのを考えられてるか、そういったものがあるのであれば、少し説明していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 こちらの先ほど町長答弁のほうにもございましたが、中小企業小規模事

業者等の持続化の補助金、こちらの制度の活用で運用の仕方をいろんなケースを考えております。基本は、今ある事業者さんの事業継続の支援、これ以外に過去にも、一般質問でも御質問ありましたが、山北町独自の新たな返礼品であったりとか、お土産物、こういったものを開発する。ただ、パッケージそのものは古いであったりとか、型が古いとかそういう方もありますので、例えばそういったものを刷新してもらってリニューアルをしていただく、そういったものなどは全て対応したいと考えています。

これ以外にも、やはり飲食店が少ない山北町ですので、可動性のある飲食を想定しまして、キッチンカーの導入支援という形のものも少しは入れさせていただきたいと考えております。

以上です。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 その辺はしっかりと進めていっていただきたいと思います。

それで山北駅周辺の活性化をベースに考えて、山北駅周辺魅力づくり推進事業というのを取り組んでおられると思います。その辺長年やられてて、どういう効果があったとか、その辺が分かれば、御説明願いたいと思います。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 効果というところちょっと難しい部分もありますが、一番よかった点としては、やはり事業者、商工事業者などの関係者、あと商工会の役員さん、こういった方々と連携を取りながらイベントなどを構成ができること、それと実際に事業者さんが求めている支援内容はどういったものなのか、そこら辺の聞き取りが生のほうが聞けるというのは非常に効果的だったとは考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 その辺しっかりとやっていっていただきたいなと思います。

続きまして、駅周辺につきまして、地域活性化といった部分で、町としてこれから山北駅周辺に限らず、町全体でやっていくことが大事なのかなと思いますけど、連合自治会、6自治会あるんでそれぞれのポイントになる部分を中心に、そこに住まいの方や事業者を含めて、また町も連携して、それぞれがしっかりとやっていけるように取り組んでいけば思うようなまちづくり

につながっていくのかなといったところで、最後いま一度、山北駅周辺の地域の活性化、今後、町長としてどう取り組んでいきたいのか、思いがあれば語っていただきたいなというふうに思います。

議
町

長 町長。

長 委員おっしゃるように、今まで山北町は、鉄道のまちであったり、またみかんとかそういったようなもので栄えてきたわけですが、今現在、山北町に来ていただく方、あるいは魅力を感じていただく方のターゲットとしては、やはりこれからは例えば、2割から3割ぐらいインバウンドが来ていただけないかなというふうに考えております。

現実的に、スマートインターができたときも、ハーフインターですから東京方面・横浜方面からのお客さんをターゲットにするしかない。また、今現在、来ていただける方のある程度の方がキャンプとか、山登りとか、そういったような方が非常に多いというふうに考えております。

そういう中で、今後山北町として中核になるターゲットとしては、私としては7割ぐらいが東京・横浜そういったような東京方面からのお客さん、そして二、三割がもし可能であればインバウンドの方が誘致できればありがたいなというふうに思ってます。そうするとそれを受け入れる側としては、どうしてもキャッシュレスを避けて通れないだろうというふうに思っておりますんで、やはりこれから御商売をさらに続けていったり、あるいはキッチンカーでやるにしても、そういったようなキャッシュレス、あるいはデジタル化というのは、非常にこれからどうしても避けて通れないというふうに考えております。

それから、今現在お米なんかがないとか上がってるというふうに分かっておりますけれども、何よりも一番中小企業事業者の方がこれから厳しい時代を迎えるというふうに思っておりますんで、それを何とか皆さんに何とか継続していただくそういうために、やはり商品券とか、そういったことも、また考えていかなければいけないだろうというふうに思っておりますんで、その辺のところは、今後ますます今の物価高とか何かそういったことを考えますと、やはり安いところに皆さんが買物に行ってしまう、そういったようなことを考えると、中小の事業者の方が非常に苦しむというところがございま

すんで、そういったところを何とか町でも支援していきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 今、町長の回答の中で、インバウンドも3割ぐらいというような想定していなかった回答があったんで、インバウンドをといるのを考えてられるんであればやはり町として、その発信力、インスタグラム一つとっても、そこから情報が拡散して、皆さん御存じでしょうけど、コンビニ越しの富士山の写真がいいって言ってインバウンドというか、結構観光客が訪れるようなことになるようなといったところで、やはり町としてそこら辺の発信力、情報発信力というところを強化していかなければいけない。常々町長もそういった答弁されてると思うんですけど、実際現状、その辺が強化されているのか、今後どういうふうに強化していくのか、その辺について御回答があればお願いします。

議 長 町長。

町 長 インバウンドについては、今現在インバウンドがいっぱい来てるのは箱根であるとか小田原については、かなりインバウンドの外国の方が来てるというふうに思っております。そういったような方がこちらの山北方面、いきなり山北じゃなくても、南足柄の道了尊であったり、あるいはまたユーシンであったり丹沢湖であったり、洒水の滝そういうような、そういったものに関心を持っていただくように、小田原市、箱根町と連携しながらやっていきたいということで、この間、西部協もそういうふうに小田原市長にも申し上げましたけれども、単純に発信力だけで来ていただけるかというのと、私はそれは難しいと思ってます。例えば行きたいというふうには見て思ったとしても、行く方法、当然車、インバウンドでしたら車じゃないんですよね。電車なり公共交通を使わなければいけないわけですから、そういったことがやはり一つの何ていうんですかルーチンというか、流れになっていなければ、実際に行きたいけども、なかなか行けないというようなことが出ちゃうと思いますんで、やはり私としては、もしインバウンドを増やしたいんですけども、増やしていくためにはやはり、今現在来ておられる小田原とか箱根とか、そういった人たちに少し遠出をしてもらうものを考えていかなければ、交通網を

考えていかなければ、なかなか難しいというふうに思ってますんで、そういったところはこれから研究していきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 今、小田原市や箱根、南足柄市と連携をして、なおかつ公共交通も考えながら、まさしく単体でやるのではなくて、複合、いろんな事業を複合的に、それで、ましてや今こういう時代ですから広域化でといった、まさに時代に合った取組、これが必要だという認識は町長あられるんだと思う。そこを積極的に進めていくことによって、将来像というか、そういった町に近づいていくのかな。その辺はしっかりと町として、町長として進めていっていただきたい。その辺の意気込みがあれば、御回答願います。

議 長 町長。

町 長 現実的に、山北町にいつ来たいのか、どこへ行きたいのか、そういうようなことを見ますと、やはり例えばキャンプ場へ行くのにも、やはり金土日とか、そういったような休みの関係とかそういったところを考えて来られる方が非常に多い。例えばインバウンドであればおそらく平日でも大丈夫だというふうに思いますけど、私としては基本的には年がら年中お迎えするのではなくて、ある程度、例えば7割のインバウンドでない方をお呼びするんだったら、やはり土日祭日を主に営業をかける。それ以外は極端なことでお休みしてしまうようなことも必要ではないかというふうに思いますし、逆にそのインバウンドをあれするのであれば、まずは月に1回とか2回とか、例えば森林セラピーをくつつけるとか、そういったようなことの中でやっていくのが一番ベターではないかというふうに思いますんで、ただ単に、何ていうんですか、来てくださいよ、こういうのがありますよということでは受入れ側としても非常にリスクが大きいというふうに考えますんで、やはり最初にやるには、どうしても月に一度、週に1回とかそういうようなペースから始めていかなければなかなか難しいんじゃないかというふうに思ってますんで、それらは、町がこうしたい、ああしたいということだけではできませんので、やはりそれを協力していただく方、あるいは事業者の方と相談しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 今町長の回答にあったように、町だけでどうこうできるという話ではない
と思います。だからこそ、民間というか地域の方、また地域の事業者と連携
をさらに強化して取り組むことによって、そういったインバウンドのお客さ
んなんかを取り込む。またそれ以外のお客さんなんかに来てもらう、そして
事業者が絡んでるんで、その経済的な効果も期待できるようになれば、関わ
ってくる方も増えてくると思うんです。それが好転していくことによってだ
んだん輪が広がっていく経済効果が広がっていく。そうすれば町長が思い描
くようなまちづくりになるのかなと。その辺はきちっと今後も積極的に官民
連携を取りながらしっかりと進めていっていただきたいと思います。

では続きまして、2番目のD5270新計画進捗状況についてですけど、これ
に関しまして思い起こせば5年前、ちょうど私が初めて一般質問した質問が
これでした。そのときの答弁で後方に25メートル延伸する。あれからもう5
年です。いろんな方、町民の方に言ってるけど全然延伸どうなってるのと、
全然レール伸びてないじゃないかと。いやこの暑さで数ミリ伸びてるよとい
う笑い話のような話になってきてるようですといったところで、延伸すると
いう町長の思いは分かってます。ただその辺が見えない、聞こえてこない町
民の方も多い。やはり延伸するんであれば、そういったいついつまでにこう
やって延伸しますよ。そして延伸した後にはこういうふうな活用して地域に
貢献していく、経済効果をもたらす地域活性化につながっていくというよう
な、そのビジョンを示してもらいたいって以前から言ってるんですけど、そ
の辺が見えてこないからどうなってんのというような町民からの声が聞こえ
てきます。その辺について町としてどのように考えておられるのかといった
ところを御説明願います。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、5年前ぐらいですと、今現在町の財政自体は、やはり
住民税とか何かはかなり下して、大変は大変だったんですけど、一つだけは
ふるさと納税というのが、7億、8億というような上に上がっていくような
状態でした。そういったような中で皆さんが納税のときに、何に使ってほし
いかというアンケートの中では町長一任というふうなこともございましたし、
私としては、できればふるさと納税を使って延伸化をやりたいというふうに

思っておりましたけども、残念ながらその後ふるさと納税が相当の減額、今半分ぐらいの4億、3億というような状態になっております。そういった中では、やはり今回の延伸化については、やはり財政的な問題が一番大きいというふうに考えておりますのでそこを何とかクリアできるように、何とかやっていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんからも御協力いただければというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 その財政的な問題、町長の考えの中には、ふるさと納税を活用してといったところで、去年度から、ちょっとふるさと納税落ち込んでいますといったところで、私以前から言ってるようにクラウドファンディングで町外から寄附金を集めて、これを活用してやるべきではないかというふうに言ってるように、やっぱりそういった形にすれば、その延伸するってこと、そしてそれを活用するということが全国・全世界に広まるのかなといったところで、それもプランニングの一つではないかと。いきなり延伸します。延伸しましたとかではなく、それに向かってこう動いてるよ、延伸した暁にはこういう活用してこういうふうにしてという、そういうビジョンを示さなければクラウドファンディングってできないと思うんですよね。その辺の以前から言っていますけど、その辺の調査研究はされてると思うんですけど、そういったところについてはいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当然、財政的なことですから、一番先に考えたのはふるさと納税、2番目がクラウドファンディングそういったところからできるだけ一般財源をなるべく使わないで寄附であるとか、あるいはそういった中で行いたいというふうに思って、当然クラウドファンディングについても相当研究しましたし、いろいろなところであれしましたけれども、なかなかやはりハードルがクラウドファンディングも高いなというふうに考えております。

例えば1,000万円とかというような想定額であれば、おそらくクラウドファンディングでも何でもいけるとは思いますけど、そんな金額ではとてもできませんので、やはりそういった意味では希望額というんですか、想定される金額を財政的に、年度的にこう、皆さんに御了承いただくようなものにつ

いては、もう少し違うことも考えていかなければいけないかなというふうに思ってます。

当然、鉄道関係の方からの御寄附とかそういうのも当然いくらかあるんですけども、どうしても、金額的には小さなものですから、やはり延伸化をかけるには、それなりの準備をしてやっていかないと難しいと思いますんで、やはり一番分かってたのはふるさと納税がある程度この程度いくんじゃないか、そうしたらこのくらいはもしかしたら、1年に1億ぐらいを想定がもし使えるのがあれば、2年か3年でそれをできるんじゃないかというふうなことを思っておりましたけど、なかなかそれが今現在そういうふうになっておりませんので、大変私としても反省するところだというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 ふるさと納税を、活用を期待してたというかといったところでしたけど、それがかなわなくなってしまったと。かなわなくなってしまっって、それで諦めるのかといったところですけど、ふるさと納税をもう一度盛り返すようなそういう取組も必要ですし、だと思っうんすよね。以前から言っているクラウドファンディングみたいところ、ここをしっかりとやって、資金が調達できたらやりますよじゃなくて、いついつまでにやるとか、そういったことはこの場では御回答いただけないんでしょうかね。いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 いずれにしても、やりたいあるいはまたやるつもりで今やってるわけですから、延伸化自体については、この鉄道のまちとして山北町が成り立ってきた、あるいはまた日本に7台しかないD52、その中で動いているのは山北の1台だけというようなことを考えると、やはりどうしてもこれを延伸をかけたいという、またかけなければいけないというふうに思っております。

その中で先ほども言いましたように、駅舎の建て替え問題も出ております。またほかのいろいろな御質問の中でも、やはりやらなければいけないことが多々ございます。ですから、そういったいろいろな問題について、皆さん、議会の皆さんと一緒に、財政的なものを含めて、前へ進めていきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 前に進めていきたいという町長の思いは理解しましたが、財政的に厳しい、でも無理やり、無理やりじゃないですけどやったときに、それだけの効果が得られればいいですけど、そういう効果が見込めない中で、さらに延伸をする、進めていくというのはどうなのかなといったところで、延伸して活用することによって、こういう効果が期待できるんだよと。それが町民の皆さんに理解していただければ、進めていくべきだと思います。といったところで財政的な問題、ふるさと納税を当てにしてたと言ったらあれですけど、そういったところがちょっと思いが変わってしまったところがあるんであればね。いま一度、このタイミングで一度立ち止まって積極的に進むのか、一度立ち止まって考え直すというか、見直すというチャンスなのかなというふうに思います。そこをしっかりとった上で、いや、それでも延伸したほうが地域活性化、地方創生につながるんだという思いがあれば、そこは進めていっていただきたいなと思います。

今後も積極的にその辺について、進めていかれると思います。その辺の思いがあれば、いま一度最後に町長のほうから答弁願います。

議 長 町長。

町 長 今現在、川崎市さんといろいろな協議をさせていただいて、また御協力をいただいております。川崎市さんのほうでいろいろな産業系の中で山北に協力できるような事業者、志望者を選んでいただいて、山北町にも何社か来ていただいて、今現在、例えば森林が多いからバイオマスをやりたいとか、あるいは今言われたD52を活用したい、そういうようなことを相談しております。

その中で、川崎市さんとの中で一番言われるのは、要するに川崎の持つてるものと山北しか持つてないものがある。特に例えば、お峰入りであるとか文化であるとか自然、あるいはそういう歴史、そういったものは、もう川崎なんかとは比べ物にならないくらい山北のほうがあるというふうに川崎の方もおっしゃっていただけてます。

ですから、私としては、やはりほかが持つてないもの、山北しかないもの、そしてまたそういうところが本当はもっとこういうふうにすればもっと多く

の人が来ていただけるんじゃないか、また町の活性化につながるんじゃないかというふうな提言をいただいている中に、D52にも入っておりますし、お峰入りも入っております。ですから、そういったものについては、山北町としてはどうしても皆さんのお知恵を借りながら、どのようにそれを進めていくかということを行うのが私の使命だというふうに思っておりますので、財政的に苦しいから諦めるとか、そういったようなことはできるだけ避けて、何とかできないかというようなこと、そしてこれができたときにはこういう効果がある、このくらいの人に来てくれる、そういったようなポジティブな前向きな考えで進めていきたいというふうに思っておりますので、決して、ただ延伸すればいいとかそういうことじゃなくて、延伸したときどうなるのか、それによっていくら、何人お客さんが来てくれるのか、そのお客さんにいくらお金を落としていただくのか、あるいは経済的に有効なのか、そういったような、次から次へ回ってくるような、経済的に回ってくるようなことをやっていかなければなかなか山北町としては、この町が発展していくということにはならないというふうに思いますので、間違いなく例えばスマートができると、もう最初の計画から日に1,300台来るだろうという想定で、現実オープンしたところはその3倍ぐらい来てるということは、もう実績としてあるわけですから、そういうようなことと同じようなことが当然スマートでも起こるし、あるいは、駅でも、そういったようなことも起こるし、あるいは駅でも、そういったようなD52とか様々なものがそれだけの何ていうんですか、関心を持っておられる方がいるわけですから、それをどういうふうに広げていって、そして経済的に町が潤うかというようなことを考えるのは私どもの責務だというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんの御協力をいただきたいというふうに思っております。